

映画／ドラマ撮影用

新型コロナウイルス
感染予防対策マニュアル

監修
医療コーディネータージャパン

2020/05/14 ver.

濃厚接触者への対応

はじめに

新型コロナウイルスにおける濃厚接触者とは？

「患者」と感染可能期間（症状が出た2日前からの期間）に接触した者のうち、次に該当する者。

- 同居あるいは長時間の接触(同一室内、乗用車やバスの車内、航空機内等を含む)があった者
- 適切な感染防護なしに患者を介護していた者
- 気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- 手で触れることの出来る距離（目安として1m）で、必要な感染予防策（主にマスク着用を指す）なしで患者と15分以上の接触があった者。

(国立感染症研究所感染症疫学センター 2020/5/01)

濃厚接触者になった場合



14日間の自宅待機で健康観察

【濃厚接触者への保健所からの指導内容】

- * 咳エチケット及び手洗いを徹底するように指導し、常に健康状態に注意を払う。
- * 不要不急の外出はできる限り控え、やむをえず移動する際にも、公共交通機関の利用は避ける。
- * 外出時のマスク着用及び手指衛生などの感染予防策を指導する。
 - * 原則として、健康観察期間中である無症状の濃厚接触者は、新型コロナウイルスの検査対象とはならない。

**撮影を中断させないためには
全員が適切な感染予防を徹底し感染者を出さない。濃厚接触者にならないこと**

ウイルスの生存期間と感染過程

新型コロナウイルスの生存期間

SARS-CoV-2(新型コロナウイルスの正式名称)の環境中の生存期間を調べた

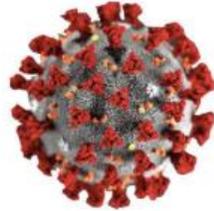
空気中* 3時間

銅の表面 4時間

ボール紙の表面 24時間

プラスチックの表面 2~3日間

ステンレスの表面 2~3日間



米疾病対策センター(CDC)とカリフォルニア大学ロサンゼルス校、プリンストン大学の研究チームが米医学誌「ニューイングランド医学ジャーナル」に発表

*新型コロナウイルスを含んだ液体を噴霧し、「エアロゾル」と呼ばれる微粒子にした

(AFP)

金属・ガラス・プラスチックに付着したウイルスは**最長3日間**生存

せきの飛まつで空中拡散したウイルスは**最長で3時間**生存

ウイルスの感染過程は
飛沫感染 と **接触感染**



飛沫感染

向かい合って30分間の食事でも感染した事例あり



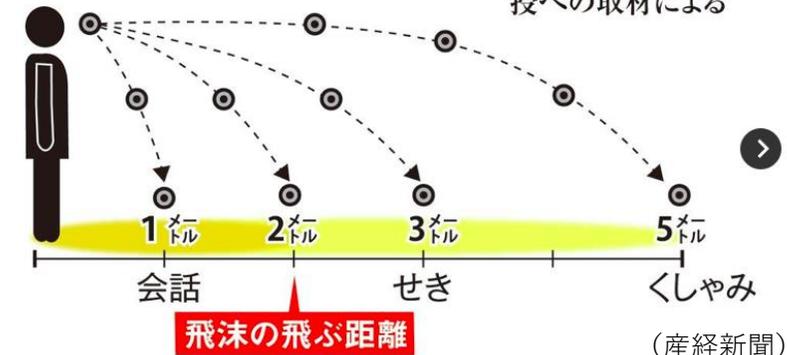
接触感染

共有PCの使用で感染した事例あり

(高知新聞)

「飛沫」の飛ぶ距離の目安

※斎藤玲子・新潟大教授への取材による



感染予防の基本方針



現場の責任者を決め全員のマスク着用を義務化

現場での感染・健康管理責任者を指名し、全ての事柄に留意させる。

スタッフ・キャスト・マネージャー・エキストラなど参加者全員のマスク着用を義務付ける。あごマスクは禁止。ロケハンの移動中なども含む。

飛沫感染予

手洗いと消毒を徹底する

各車両・控え室・ロケ場所入口・ベースなどにアルコール消毒液を設置し手指の消毒を徹底する。消毒液がない場合は、こまめに手洗いすること。また、機材や車両の消毒も行う。

接触感染予防

手洗い・消毒

毎朝検温を行い体調報告を徹底する

撮影参加者の検温を行い、また体調報告や同居する者に体調が悪い者がいないかなどの管理を徹底する。

体調管理

『三密』を回避し、消毒・換気を徹底！

スタッフ・キャストの接近を極力避ける

準備段階での各打合せ・衣装合わせ・ロケのドライ（段取り）カット割打合せ・撮影ベース・スタジオ前室などで人が密集しないように気をつける。参加人数を絞るなどの工夫を。

飛沫感染予防

接触感染予防

密集・密接回避

できる限りの換気を心がける

セット撮影や室内ロケなどの際は、できる限り換気をする。撮影時以外はスタジオ扉や窓を開放すること。休憩時には美術搬入口の扉を開放して換気する。車両移動時は必ず窓を開ける。

飛沫感染予防

換気

飲食類・ケータリングなどは控える

ウイルスが付着し増殖しやすいためお茶・コーヒーなどの提供は中止し、ペットボトルを配布したり水筒を持参するなどに対応。お菓子等の差入れも禁止。またケータリングも禁止し、弁当のみとする。

飛沫感染予防

接触感染予防

感染・健康管理責任者の任命と体調の把握

1

プロデューサーが『感染・健康管理総責任者』となり各部署に適切な予防を周知し、現場には『感染健康管理責任者』を1～2名任命する。（各部署及びAP・制作担当など）



マスクをつけてください！

移動の時は窓を開けて換気を！

少しでも体調に異変がある者は必ず休むよう指導する！

ロケ出発前に検温&体調確認
体調に異変ある者はその場で返す！

2

管理者は毎日の検温結果の記録と全員の体調報告を記録。
発熱（37.0℃前後）がある者は直ちに隔離し、帰宅させる。（場合によってはその個人と密に接している者も帰宅させる）
家族や同居人に発熱や咳などの感染症状がある場合もロケ・撮影には参加させない。

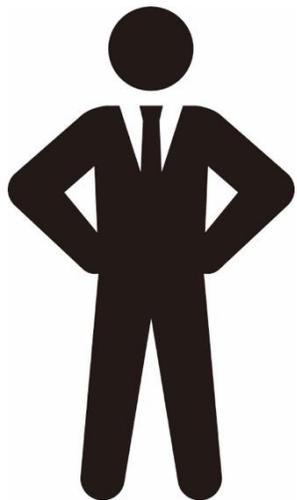
【検温ルールの設定】 赤外線体温計などでロケ集合時に各車で検温することを義務付けるなど。

【検温と体調の記録】 体調把握と体調に異変を感じた者は必ず自宅待機させること。

【感染疑い者のケア】 当事者とその家族などに感染の疑いがある場合は専門医療スタッフと相談。

3

感染・健康管理責任者は密集・密接・密室を回避するよう気を配り、換気などを指示、また手洗いを励行させ、触ったものの消毒の確認などを行います。



プロデューサーやディレクターは
感染・健康管理総責任者の指示に全ての撮影関係者が従うように指導してください！
感染・健康管理総責任者は感染者・濃厚接触者が出て撮影を中断・延期させないためにも現場の感染予防を徹底して行うよう各所に指示をしてください。

37.0℃前後の発熱やどこか体調に異変がある場合は、
直ちに感染・健康管理総責任者と各部署の感染・健康管理総責任者に報告し休むという
意識を徹底することをお勧めします。
体調不良なので休む と躊躇なく言い出せる環境作り、関係づくりが大切です。

『迷惑をかけたくないなら、休む。』という意識

感染・健康管理責任者には、事前に講習・指導を行います。

マスクの着用義務と注意点

①

撮影関係者全員にマスクの着用^{*}を義務付けてください。
マスクは飛沫による感染拡大を防止し、感染の予防にも効果があります。
あごマスクは意味がありません。



マスクの着用は“適切な感染予防”の重要事項です。
濃厚接触者にならないために徹底してください。
俳優はフェイスシールドの着用がベストです。

手すりやドアノブからの感染



②

マスクの着脱は必ず耳元のゴムを持つこと。
マスクの上から手を触れると汚染され感染する危険性があります。
「手は顔に触れない」という意識が重要。

③

マスクは消毒し、引き続き使用する場合はジプロックで保管。
捨てる場合はジプロックに密封して廃棄すること。
必ずゴミ袋にそのまま捨てることはしない。



マスクは翌日まで使い回さない！ 手を顔に触れない！
使用済みのマスクの廃棄にも気をつけること！

^{*}全国マスク工業会会員マークが付いている製品の使用が望ましいが品薄の場合にはその限りではない。



手洗い・消毒・接触感染の予防策

1

手洗いと手指の消毒を徹底して行う。
モノ・人に触れたら手を洗う、消毒するという意識を徹底すること。
飲食の直前も必ず手洗いをし、手袋をしたまま食べないこと。



【消毒液の設置場所】

- 撮影場所の各出入り口 □控え室・支度場所（メイク・衣装各1個）
- 撮影ベース □待機場所 □各車輛 など（各自にミニボトルがベスト）

2

お茶・コーヒー・お菓子などの提供中止。
差入れやケータリングも禁止。

紙コップなどは唾液が付着しており大変危険です。ケータリングも接触・飛沫感染の危険が多いので禁止してください。

【お茶・水のペットボトルを配布】し【記名】して自己管理するか水筒持参がベスト。

3

ゴミの取り扱いは慎重に。
誰かが接触したモノは危険物として取り扱う。

【ゴミ袋はクリップなどで封をする】など工夫をする。

【弁当のゴミ】は従来の〈セルフ仕分け放置型〉はとても危険です。担当者が**【使い捨て手袋をして受け取り、すぐにゴミ袋に入れて封をする】**などの対処がベストです。唾液はウイルスの温床であるという意識を。

手洗いの時間・回数による効果
(2006年「感染症学雑誌」より抜粋)



手洗いの方法	残存ウイルス数
手洗いなし	約100万個
流水で15秒手洗い	約1万個
ハンドソープで10秒または30秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数百個
ハンドソープで60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数十個
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回繰り返す	数個

4

スケジュールなどの配布は感染・健康管理責任者が手袋をして行う。
自分がウイルスを保有しているかもしれないし、物にウイルスが付着している
かもしれないという意識が重要。

配布物の受け渡し時も細心の注意を払うことが重要。多数の人に渡るモノに触れる際は、必ず手指を消毒する。
できれば使い捨て手袋をして配布するなどの対処が安全。

ニトリル手袋がベストだが、ビニールの手袋（サクラメン手袋など）でも可。ラテックスの手袋などは、ラ
テックスアレルギー（果物アレルギーのある人に多い）がある人は使用不可。（アナフィラキシーショックを
起こすことあり）アルコール過敏のある人は、アルコール禁忌ですので、オスバン（塩化ベンザルコニウム）
やヒビテン（クロロヘキシジン）も若干の用意が必要です。

5

メイク・衣裳には消毒液を各自に配布しておく。
俳優の顔に触れざるを得ないスタッフにはその都度の消毒を徹底する。

メイク部・衣裳部は俳優と非常に近い位置で作業をするので、感染する機会が高く、自分を介して別の俳優を感
染させる可能性も高いと意識すること。マスクの他にフェイスシールドの着用は必須。アシスタントまでアル
コール消毒液を配布しておく。顔や衣服に触れる際は必ず消毒する。

録音部もマイクの着脱の際には消毒すること。

俳優を感染者・濃厚接触者にさせないためには、メイク・衣裳担当者に細心の注意が必要です。

メイク・衣裳担当者は作業時は手袋を着用する。（その都度、取り替える）

ヘアブラシなどを共有しないのがベストだが、出来ない場合は使用の度に必ず消毒する。

換気の悪い場所での長時間のメイクは避け、必要最低限の接触にする。

6

俳優部は適宜、手指消毒する。スタンバイ時はフェイスシールドがベスト。

7

待機中などには、必ず2m以上の距離を取り、飛沫感染を避け接近を避ける。撮影ベースなども出来る限り密接環境を避けること。音声ミキサー作業は可能な限り一人で行う事が望まれる。

8

トランシーバーは使い回さずジップロックで各自が管理&消毒用アルコールで消毒。
撮影場所の手が触れるモノは徹底して消毒を繰り返す。

各部署で接触感染の予防と消毒を徹底するよう指示してください。

- ワイヤレスマイクなどの着脱は注意し、必ず消毒を行う。
- 持ち道具・小道具なども小まめに消毒を行い、取り扱いに注意する。
- 撮影機材・特機なども使用前と使用後は消毒を行う。

9

エキストラや俳優マネージャの検温と体調把握も必ず行い、体調不良の者は参加しないように事前に周知徹底する。また、待機場所での“三密”を避けるよう留意する。

□必ずマスクの着用。（全国マスク工業会会員マークが付いている製品が望ましい。）

□検温と体調報告を徹底する。体調不良者はロケに参加させずに帰宅させる。

（家族に体調異変者がいないかも確認）

□基礎疾患がある者は参加させないこと。もしくは問診票（病気を指摘されたことがあるか？ それに対して薬を服用しているか？）を書いてもらって、その秘密は保持しつつ病的状態を持っている人には健康・感染管理総責任者が注意観察する。

□待機中の密室・密接・密集を回避し、また出来る限り会話は控えさせる。

□撮影参加時は手指の消毒を徹底して行い、本番時以外はマスクを着用してもらう。

□撮影準備中はその都度、現場から出てもらうなど接触時間を減らす工夫をする。

※エキストラを伴う撮影は出来る限り人数を少なくし、現場での接触時間を減らすことが望ましい。

1mの距離で15分以上共にいると、もしエキストラから感染者が出た場合は濃厚接触者になります。

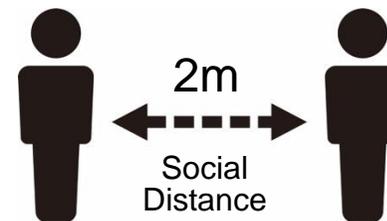
“三密”回避と換気の徹底



1

各打合せ時は2 m以上の距離を置いて座ること。
常に窓や扉を開けて換気しておくこと。

感染者との接触【時間と距離】が【濃厚接触者の重要な判断基準】になるので注意してください。出来る限りWeb会議が望ましい。



2

美術打合せ・衣裳合わせなどは換気可能な広い場所で行う。
参加人数を少なくするように調整し、密集・密接を回避する。

各打合せの際も消毒液は常備し、マスク着用を義務付けてください。
台本・資料・スケジュールの配布の際も手袋と消毒をするよう気をつけてください。

3

車輛移動時は乗車の際に手指消毒を行いマスクを着用して、できる限り分散乗車し、窓は必ず開けて換気しておく。

車輛移動は密集空間であることは避けられないので、【マスク・消毒・換気】を徹底してください。
また各車ドライバーには車内の消毒を徹底するようお願いしてください。
待機中のドライバー同士の交流も避けるようにしてください。

4

撮影時もスタジオ・ロケセットで密集・密接の状況が発生しないよう工夫を。ドライ（段取り）への参加スタッフを制限し、狭い撮影場所では外で待機を促すなどの工夫が必要です。換気もできる限り行ってください。エアコンは換気が出来ません。外気を取り込む工夫をする。

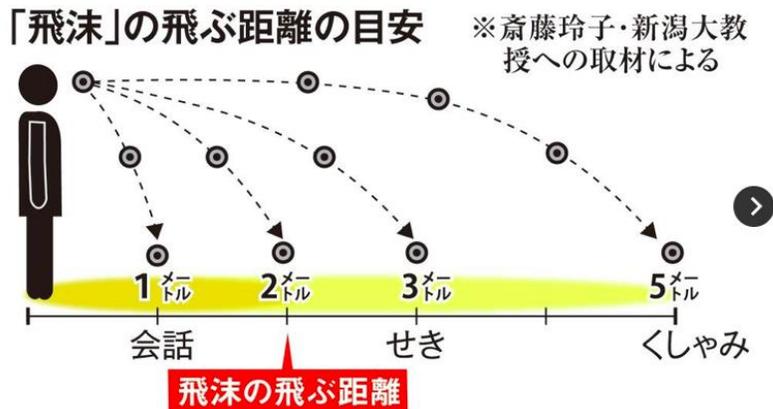
大変困難ですが2mの距離を取れるよう工夫してください。

本番以外はスタジオの前室扉を開放したり、休憩時には美術搬入口を開放するなど換気を徹底してください。サブも扉を開放しておくなどの換気努力を行ってください。控え室も広い部屋で換気できる環境がベストです。

5

食事の際は集まらず距離をとること。飛沫感染の危険が高いため要注意。ケータリングは禁止し弁当で対応。ゴミの廃棄などにも注意。

弁当を配る者は必ず手袋・アルコール消毒をすること。食事の際はマスクができないので、密集・密接して食事しないように注意すること。手袋の表面にはウイルスが付着している可能性があるため、飲食の直前には手袋をはずして手を洗って下さい。ゴミの扱いにも細心の注意を払うこと。唾液はウイルスの温床です。



消毒の徹底

1

撮影現場の備品や机と椅子・部屋・ドアノブの毎日の消毒を行ってください。
消毒用の次亜塩素酸ナトリウムは自作できます。

スプレーで以下を除菌消毒してください。

- 撮影現場や控え室の椅子・机・ドアノブなど
- メイク道具
- 各車輛のシートや手に触れる部分
- ロケセットのトイレ
- スタジオなどの床

次亜塩素酸ナトリウム液は手指に使用すると肌荒れするので使用しないこと。
また吸い込まないように注意すること。
次亜塩素酸のスプレーは危険なため厳禁。次亜塩素酸を染みこませて絞ったウエス等で拭いて消毒。
また金属類は錆びる危険があるので撮影機材などはアルコール消毒が良いです。
アルコール過敏のある人は、アルコール禁忌ですので、オスバン（塩化ベンザルコニウム）やヒビテン（クロロヘキシジン）なども若干の用意が必要です。

※次亜塩素酸ナトリウムは吸い込むと有害です。
必ず手袋・マスク・ゴーグルをして消毒を行ってください。

0.05%以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方



以下は、次亜塩素酸ナトリウムを主成分とする製品の例です。
商品によって濃度が異なりますので、以下を参考に薄めてください。

メーカー (五十音順)	商品名	作り方の例
花王	ハイター	水1Lに本商品 25mL (商品付属のキャップ1杯)
	キッチンハイター	水1Lに本商品 25mL (商品付属のキャップ1杯)
カネヨ石鹼	カネヨブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)
	カネヨキッチンブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)
ミツエイ	ブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)
	キッチンブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)

チェックシートの作成と記入

1

体調管理チェックシートの作成

☆体温は一日2回。体温・咳だけでなく、味覚異常や 湿疹用の発疹 等も記載。

部署	氏名	体温	咳の有無	体調報告	同居人の異変
助監督	●●●●	36.6	×	良好	なし
撮影部	●●●●	37.1	○	だるい	なし

2

消毒チェックシートの作成

場所・備品	消毒者	日付	時間
控え室	●●●●	5/10	6:30
スタジオドアノブ	●●●●		7:00
前室の机と椅子	●●●●		7:00

感染者と濃厚接触者への対応と体制

【撮影に参加させない方がよい条件】

- 発熱（37.5℃前後）がある者。
- 発熱はないものの咳や味覚障害、だるさなどの体調異変がある者。
- 家族や同居人に発熱や感染症状がある。



- * 感染・健康管理総責任者
- * プロデューサー
- * 部署長・所属会社

報告・相談



医療コーディネータージャパン
感染予防担当者



対応助言

本人及び同居人とコンタクト

- * 症状・容体の確認と把握
- * 医療的な適切なアドバイス
- * 経過観察（メールやラインなどで）

プロデューサーや所属会社には感染・健康管理総責任者から報告する。個々で報告はしない。（そうしないと管理者を決めた意味がなく、体制機能がなくなる。

医師と相談の上
就業の可否を判断し助言



* 本人または家族、または医療コーディネータージャパンから

医療コーディネータージャパンは医療従事者の観点から適切な対処の助言と手配を行います。治療に関しては各自の責任で行ってください。

居住地域の保健所に連絡
撮影現場の保健所に連絡

提携先の病院
PCR検査の手配

自宅待機者は経過観察

【監修】

医療コーディネータージャパン株式会社

東京都千代田区神田駿河台2-1-19 アルベルゴ御茶ノ水ビル6F

〈TEL〉 03-6712-0767 〈MAIL〉 soudan@mcjapan.jp

医療相談、医療・福祉関連の教育・セミナー・講演会の企画運営・ドラマ映画の医療指導監修

代表 堀 エリカ（看護師・救急救命士・院内感染管理責任者を兼務経験）

日大板橋病院診療教授／医療安全管理室副室長(感染環境学会所属,医療安全)

医師 内ヶ崎 西作

株式会社実務薬学総合研究所／東京理科大学薬学部臨床准教授

薬剤師 水 八寿裕

国立国際医療センター

医師 松本 慎一

【マニュアル作成】

医療コーディネータージャパン